

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念を実践しやすい形で表している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を台所など目につきやすい所に掲示し、意識して取り組めるようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念を新聞に記載し、家族、病院に配布している。また運営推進委員会の役員から、ホームの活動を伝えてもらうなどしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者と散歩の際、近所の方と挨拶や会話を交わすなどしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校の運動会に参加したり、商店を利用したりしている。しかし地域の一員として十分な交流ができていない。老人会や市の行事等の内容と利用者の状態を考えると、参加が難しい場合が多かった。		地域との繋がりを持って生活していくことの大切さを踏まえ、現在の利用者の状態に参加できる内容を考え、再検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	母体の病院で行われている、認知症を抱える家族の会の呼びかけや、見学者の受け入れも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を活かし、外部との交流を持つ上で個人情報に関わってくるため、それについて家族にアンケートを取るなど、できることから改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、事故や取り組みなど状況報告や話し合いを行っている。委員の意見や感想等を伺い、参考にしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村が主催する研修会などに参加をしてサービスの向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	月に1回程度行う勉強会でそれらについて取り上げたり、資料等をいつでも見られるように用意したりしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などへ参加し、学んでいる。また、アザ等を見つけた際はヒヤリ・ハットへ記入することを徹底し、小さな変化に気付くよう意識している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>不安や疑問点について入所の際に十分説明を行い、理解・納得していただけるようにしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特に機会は設けていないが、利用者が管理者や職員に思っていることを話しやすい雰囲気作りを心掛けている。実際に聞いたことに関しては話し合うなどして反映させるようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態について変化があった時はその都度連絡をしている。また、面会時や月に1度、請求書と金銭明細等と一緒に担当職員から各利用者の生活の様子を手紙に書いて伝えている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>いつでも意見等を書いて入れていただけるよう御意見箱を設置している。また面会時に家族とコミュニケーションを図り、気づいたことを話していただけるよう心掛けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議等で意見を聞いており、それらを反映させるようにしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じた勤務体制が取れるようユニット会議等で話し合い、提案したり勤務調整を行ったりしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は極力行わないようにしている。やむを得ない事情での移動・離職は仕方がない状況。利用者、職員でささやかではあるが、送別会を行いお別れを言う機会を設けたり、なるべく早く馴染みの関係になれるよう歓迎会を開いたりしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内での勉強会や法人内外の研修に参加している。研修によっては参加できる人数が決まっているものもあるため、全員の参加は難しい。</p>	<p>職員一人ひとりのレベルに合わせて、個別に学ぶことができるような機会やきっかけ作りも考えていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体の病院で同業者が集い、意見交換や各々の施設の様子を話し合うなど交流の機会を設けている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスを感じやすい職業なので、悩みや不満などお互いに話しやすい雰囲気を作り、一人で抱え込むことがないように心掛けている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員はそれぞれ自己目標を立ててそれに向けて働いている。また半年に1度目標を振り返り、向上心を持って働けるように努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族に対しては、入居が決まった時点で入居までの間、日中、来棟してもよいということは話している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申し込み時に状況を聞き、その後も必要があればホーム、あるいは法人のソーシャルワーカーに相談していただくように話している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時点での、こちらの待機状況を説明し、ケアマネージャーなどと相談しながら、他の利用も行っていくよう話をしていく。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に来棟された際、フロアなどで話を伺い、ホームの雰囲気を感じていただけるようにしている。入居後も家族と相談しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に過ごし、一緒に笑い合えるような関係作りを心掛けている。人生の先輩である利用者日々の生活を通して、昔の歌や出来事などを教えていただくこともある。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員が一緒に一人の利用者を支えていくという意識を持っている。外出時、同伴していただき、一緒に楽しんでいただけるよう呼び掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、アルバムなどを活用し、ゆったりとした時間を一緒に過ごしていただけるよう配慮している。面会がない時は家族に連絡を取りながら、電話で話をするなどの時間を持っているようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方など自由に面会に来ていただいている。本人の馴染みの場所や思い出に残っている場所をドライブなどで訪れている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わりを持って共に生活していただけるように努めている。利用者間でトラブルになることもあるため、関係性には十分注意して支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現時点では当てはまる方はいないため行っていないが、退所された利用者の家族と挨拶を交わしたり、本人の様子を伺ったりすることはある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ちょっとした発言などにも耳を傾け、支援する際のヒントにしている。困難な場合は生活歴や家族からの情報をもとに本人本位のサービスが行えるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴や馴染みの暮らし、好き嫌いを聞き、ケアに活かせるようにしている。また、気になる行動や会話があった時はそれらの情報や本人、家族に話を聞き、原因を考えていくようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の状態、排泄、食事量、バイタル、入浴回数などを記録し、把握している。ケース記録を書く際、発言や表情などを詳しく記入し、心身状態の変化に気付けるよう心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当者がアセスメントを行い、本人、家族の要望等を聞き、介護計画を作成している。医療、栄養、リハビリ、精神症状で専門的な情報を要する時は、母体の病院の専門職の意見を聞くことも行っている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングや毎日の申し送り時に利用者の変化について話している。利用者の現状に対応できるよう、それらを活かして介護計画を作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入や毎日の申し送りで、職員全員が情報を共有しながら、ケアを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしての機能はもちろんだが、母体の病院の機能も活かした対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアに入らせていただいている。また、地域の学校の運動会に参加している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人のメンタルホスピタルの行事などに参加させてもらうなど、その方の日常生活が豊かになるような支援をしている。また、同法人のデイサービスと必要があれば入浴等の設備の利用が可能な状態にある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は特に行っていない。運営推進会議で情報を提供してもらっている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族の希望を聞き入れている。ほぼ全員の利用者が協力病院を主治医としているので関係はできている。急変時など主治医が訪問することもある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	母体の病院に精神科があり、必要な時に専門医の診察を受けたり、相談したりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームの看護師に相談し、健康管理や医療活用を行っている。また、病院の看護職員にも相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	急な環境の変化による利用者への影響を考慮し、できるだけ職員がお見舞いに行ったり、入院中であってもお茶の時間をホームに来て過ごしたりできるようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に家族と話をしている。本人、家族と話し合い、お互いの協力のもとでできるだけ希望を受け入れられるように努めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること、できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	そのような利用者に対し、より良い支援をしていくために何ができるかを考えている。実際にそのような場面になったら、医療との連携を図り、利用者を支えていきたいと考えている。		看取りを行う上で各職員が不安に思う事等、意見を出し合い、話をしていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、ケア関係者にどんなに小さな情報も提供するようにし、住む場所は変わっても今まで通りの生活を継続していただけるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の立場に立ち、思いやりの精神で接している。また、敬語にこだわらず、その方にあった理解しやすい声掛けを心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の生活の中で思いや希望に気付けるように心掛けている。利用者が自己決定できるように、複数の選択肢を用意するなど各々に合わせた形で支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者それぞれのペースを把握し、やりたいことなど可能な限り希望にそって支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>行きつけの店がある方にはそこを利用している。お気に入りの服を着たり、好きな髪型に結ったり、その方の希望を尊重するようにしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>好き、嫌いを把握し、食事を楽しんでいただけるように心掛けている。心身の状況をみながら、盛り付けなどできることを無理のない範囲でやっていただいている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>毎日晚酌をされる方、好きな飲み物やその温度、その時食べたいとおっしゃったものなど、各利用者の好みに合わせて支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の状態に合わせ、夜間おむつを使用している方でも日中は布パンツにパットを使用し、トイレ誘導をしている。特に便秘傾向の方には毎日朝食後にトイレに座っていただき、習慣が付き、すっきりしていただけるように働きかけている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全に入浴していただけるように必ず職員が見守りを行っているため、職員の人数が多い時間帯になってしまっている。午前中に行くことが多い。午後からの入浴など、可能な範囲で希望に添えるよう努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間安眠できるように日中散歩や会話をしたり歌を歌ったりしている。昼間でも眠い時は一休みできるようにしている。また、寝付けない時にはホットミルクを召し上がっていただき、気持ちが落ち着くまで職員と一緒に過ごしたり、安心していただけるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各利用者の生活歴や趣味などを職員が把握し、生活に取り入れ、ハリのある生活をしていただけるようにしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは事務所で預かっている。利用者によっては少額を自分で所持している方もいたが、現在は自分で管理していない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や、ドライブ、外食など、できるだけ外出する機会を作るようにしている。その時の利用者の状態により、外出願望が強い方、落ち着かなくなる方が優先になってしまうことが多い。		全員が偏りなく外へ出かけられるように意識し、支援していく。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所や馴染みの場所、なるべく本人の希望するところへ行くようにしている。家族とも連携し、一緒に外出している。		そういった機会を徐々に増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できるだけ、好きな時に電話をしたりしていただいている。自分で難しい部分に関しては職員が代行して行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に面会に来ていただけるような雰囲気作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない認識を持って介護している。徘徊傾向、落ち着きのない方には一緒に家事を行ったり、散歩に出かけたりして対応している。また、転倒・転落の危険がある方には椅子の高さや、低床ベッドを取り入れたり、車椅子のフットレストを外し、動きやすくしたりしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	できる限り鍵を掛けていない。玄関にセンサーを設置し、音で知らせるようにして対応している。職員の人数が少ない朝夕や介助でフロアが手薄な時は一時的に施錠することもある。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、所在確認はしている。特に外出願望のある方は特に注意して見守っている。トイレも時間が長い場合は心配なので様子を見に行っている。夜間は0時、3時、5時に巡回して状態を確認している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は、一日2回本数の確認をしている。異食行為のある方は、いつ、どのような物を食べようとしたか、状態を全職員が把握し、事故を防ぐようにしている。洗剤は、無くなったら出し、必要以外の本数は出さないようにしている。漂白剤などの薬品は段ボールなどで目隠しを作り、わからないようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルを作ったり、勉強会を開いたりして事故防止に取り組んでいる。ヒヤリ・ハットや事故報告があった時には職員全員が把握している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作り、対応できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を行い、避難の方法を確認している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時や毎月の手紙で普段の様子とリスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の関わりの中で利用者一人ひとりの状態把握に努めている。気付いた点は申し送りなどで伝え、情報の共有をし、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬担当者を明確にし、薬の処方箋をケース記録に挟んでおき、いつでも確認できるようにしている。また、特に薬の変更があった際、歩行状態などに副作用が現われていないか等、変化に気付くよう努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	普段から乳製品や食物繊維が豊富な食材などを食事に取り入れるようにしている。下剤等を利用している方もいる。特に便秘傾向の方には排便習慣を持っていただくため、朝食後トイレに行っていたくよう働きかけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後は行っていないが、汚れている時はその都度行っている。寝る前は、介助して清潔にするようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い献立を心掛けている。一人ひとりの摂取量を把握し、体調変化や摂取量が普段と違う時は記録している。尿量が少ないなど、何か異常があった時は水分摂取量を測定したり、水分を多めに摂取していただいたり、状況に応じた支援も行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルに沿って対応する。世間で流行し始めたら、注意を促すため、プリントを申し送りノートに記載し、全職員が把握する。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食終了後、まな板や布巾を消毒している。調理時も肉や魚を切った際はその都度消毒を心掛けている。食材も新鮮なうちに使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先に花を植えたり、椅子を置いたりしてホッとできるような工夫をしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアなどに花を飾るなどし、季節を感じていただけるようにしている。利用者と散歩に行った際に見つけた花を飾ることもある。壁に飾り付けを行うなど、明るい雰囲気作りを心掛けている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外にもソファや和室、玄関の付近に椅子を置き、好きな時に好きな場所で過ごしていただける工夫をしている。利用者同士のトラブルが予測される際は一時的に移動していただくこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には安心してくつろげる場所になるよう、本人、家族の好みのもを自由に持ってきていただけるようにしているが、全員ではない。なかには転倒のリスクが高く、けがの恐れがあるために、家族と相談した結果、あまりものを置いていない方もいる。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房は25度以下・以上にしないと決めている。こまめな換気、掃除中は窓を開けるように決めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。手すりも設置されており、廊下も広いので、車椅子を自走する方でもほとんどぶつかることなく移動できる。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋に名札を掛け、また個々に目印をつけている。他には特に何もしていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭に畑があり、毎年利用者と一緒に農作業を行い、作物が育つ様子を眺めたり、収穫したものを味わったりしている。また、池の鯉に餌をあげるなど、楽しんでいただけるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)